

しかし、私が1898年9月に学校を引き継いだ時には、86名の生徒しか登校せず、その生徒達の氏名が9月からI・G・ピアソンのもとに登録された。

この年の3月31日に、5名が卒業した。高橋千代は2年間この学校で教鞭をとることになっており、小清水チサトは98年7月までこの学校で教える。高橋静枝は日本語科のみの修了生、阿部春は英語の勉強を続けるため戻って来て、98年2月まで教える。酒井千代は98年7月まで教えた後、勉強のために上京した。

先の卒業生の河井道はこの学校で2年間教えた後、ブライアン・モア奨学生で渡航出来なくなった者に代わって、1898年7月29日に米国に渡り、現在はペンシルバニア州のジャーマンタウンの予備学校で学んでいる。

1898年度の財政報告(98年9月から99年7月まで)はスミス先生が行う。

生徒数 113名

寄宿生 32名

キリスト教信者 28名(受洗をしていない者は含まれない)

受洗者数 教員1名を含めて 12名

卒業者数 3名

(署名 アイダ・グレップ・ピアソン)

1899年

1899年1月1日以降の教員スタッフは、1898年と同じだが以下の変更があった。

- 1 須貝先生が退職し、後任に高橋先生が就く。
- 2 4月に武田先生が病気になり、その後を山本先生が引き継ぐ。
- 3 山本先生が弘前へ移り、後任に佐々木先生が就く。
- 4 西田先生が退職し、後任に田中先生。
- 5 2月1日、阿部先生が退職。
- 6 吉井先生から、1月1日からの一時的休暇願いの申し出があった。

この年は1月から7月にかけて、女教師達に対する反感の気持ちが上級生の間に広がり、大変な試練の時期であった。この問題はついにストライキにまで発展し、その